

2025 年 学修時間・学修行動の把握に関するアンケート
社会福祉学科

<結果集計>

学 年	回答率
1 年生	100%
学 年	回答率
2 年生	100%

<結果集計および分析>

【1 年】

・1 日の平均的な「授業外学修時間」について、「1 時間～2 時間未満」が 69%、次いで「1 時間未満」24%であった。また、「学修外学修」で利用した学修方法で多かったのが「教科書・参考書」を用いた方法で 69%であった。学習アプリの使用は誰も居なかった。

・学習の方法について、「学習の計画を立てている」では「ときどき」が多く 59%、「計画を実施している」では「ときどき」が最も多く 38%、「わかるまで確認している」は「ときどき」が 72%、「自分の言葉で書き留めるようにしている」は「ときどき」が 55%と全ての項目に対し「ときどき」の回答が最も多かった。

・サークル活動の回数は「ほとんどない」が多く 55%の回答であった。

ボランティア活動について「ほとんどない」が 83%、アルバイトの時間について「週 7 時間以上」は 59%であった。

【2 年】

・1 日の平均的な「授業外学修時間」について、「1 時間未満」43%で、次いで「1 時間～2 時間未満」が 23%であった。また、「学修外学修」で利用した学修方法で多かったのが「教科書・参考書」を用いた方法で 83%であった。学習アプリの使用は 10%であった。

・学習の方法について「学習の計画を立てている」では「あまりしない」が多く 63%、また「わかるまで確認している」は「いつもする」が 47%、「自分の言葉で書き留めるようにしている」は「ときどき」の 43%の回答であった。

・サークル活動の回数は「ほとんどない」が多く 63%の回答であった。ボランティア活動では「ほとんどない」が 80%、アルバイトの時間について「週 7 時間以上」は 50%であった。

【分析】

授業外学修時間は 2 年次より 1 年次の方が 1 日当たりの平均時間が長い事が分かった。しかし、2 年に進級することによりで学習方法に広がりがあり学習アプリ等の活用も見られた。学習計画や実施・評価について、1 年次はときどきするの回答が多かった。しかし、2 年次では計画などあまりしないと回答しているが、授業で分からないことは分かるまで確認をしたり、自分の言葉で書き留めるようになったと変化していることが分かった。

1、2 年次ともアルバイト 1 週間当たり 7 時間以上の回答が多いことから、サークル活動やボランティア活動の回数が少ないことに繋がっていると考え。

<アンケート調査・分析内容を踏まえた教育活動の見直しにかかる観点等>

【見直し案】

アルバイトを継続しながら、授業外学修時間を伸ばすためには、予習や復習、課題提出、これらの学習計画、立案、実施に向けた授業の取り組みが必要であると考え。

2025 年 学修時間・学修行動の集計結果

看護学科

<集計結果>

学 年	回答率
1 年生	95%

<結果集計および分析>

・今年度の 1 日の授業外学修時間は「ほとんどない」が 7.5%（前年度+5.7）、「1 時間未満」が 40%（前年度+4.3）、「1 時間から 2 時間未満」が 47.5%（前年度+18.9）、「2 時間から 3 時間未満」2.6%（前年度-18.8）、「3 時間以上」2.6%（前年度-9.9）となっており、1 日当たりの学修時間が 2 時間未満の学生の割合が増加している。

・授業外学習で実際に利用した学習方法として最も多いのは「教科書・参考書を用いた予習・復習」と「Web 検索」で 72.5%、次いで「AI ツールの活用」60%となっている（重複解答可）。今年度の 1 年生から教科書を電子書籍としているため、学習ツールとして PC やタブレットを使用していると言える。

・普段の学習や試験前の学修について、学修の計画を立てている「いつもする」が 20%、「ときどきする」47.5%、「あまりしない」30%、「まったくしない」2.5%

・計画の評価について、「いつもする」が 15%、「ときどきする」22.5%

・わからないことをわかるまで確認は「いつもする」が 35%、「ときどきする」52.5%

・授業や講義の内容を自分の言葉でまとめる、について「いつもする」が 40%、「ときどきする」45%

学修時間とアルバイト時間、ボランティアの参加回数、サークル活動数との間には明確な関係性を見出せる結果とはならなかった。一方、ほとんど課外活動をしない学生でもアルバイト時間が長い学生でも、1 日の学修時間が 2 時間未満のものが大半を占める（94.9%）と明らかになった。

学 年	回答率
2 年生	100%

<結果集計および分析>

・今年度の 1 日の授業外学修時間は「ほとんどない」が 7.8%（前年度+7.8）、「1 時間未満」が 25.5%（前年度+11.2）、「1 時間から 2 時間未満」が 45.1%（前年度+5.4）、「2 時間から 3 時間未満」15.7%（前年-16）、「3 時間以上」5.9%（前年-8.4）となっており 2 時間未満の割合の増加が顕著である。

・授業外学習で実際に利用した学習方法として最も多いのは「教科書・参考書を用いた予習・復習」82.4%、次いで「Web 検索」で 47.1%、「AI ツールの活用」「動画コンテンツの視聴」が同率で 25.5%となっている（重複解答可）。Web 検索を使用する学生は約半数であり、AI ツールの活用、動画コンテンツの視聴は学生の 4 分の 1 にとどまっていると言える。スマートフォンを日頃使用しているが学習目的で Web コンテンツを活用していないと言える。

・普段の学習や試験前の学修について、学修の計画を立てている「いつもする」が 25.5%、「ときどきする」43.1%、「あまりしない」25.5%、「まったくしない」5.9%

・計画の評価について、「いつもする」が 11.8%、「ときどきする」25.5%

・わからないことをわかるまで確認は「いつもする」が 29.4%、「ときどきする」52.9%

・授業や講義の内容はを自分の言葉でまとめる、について「いつもする」が 13.7%、「ときどきする」52.9%

1 年生と同様に 1 日の学習時間が 2 時間未満の学生が増加している。また、ボランティアの参加回数、サークル活動はほとんどない学生の割合が多いが 1 日の学修時間が多いことはない。

学 年	回答率
3 年生	56%

<結果集計および分析>

- ・今年度の 1 日の授業外学修時間は「ほとんどない」が 5.9%（前年度+5.9）、「1 時間未満」が 17.6%（前年度-2.9）、「1 時間から 2 時間未満」が 32.4%（前年度-8.5）、「2 時間から 3 時間未満」17.6%（前年-2.9）、「3 時間以上」26.5%（前年+8.3）となっており「ほとんどない」と「3 時間以上」で割合が増加している。
- ・授業外学習で実際に利用した学習方法として最も多いのは「教科書・参考書を用いた予習・復習」85.3%に次いで「Web 検索」で 61.8%、「AI ツールの活用」47.1%となっている（重複解答可）。
- ・普段の学習や試験前の学修について、学修の計画を立てている「いつもする」が 26.5%、「ときどきする」55.9%、「あまりしない」11.8%、「まったくしない」5.9%
- ・計画の評価について、「いつもする」が 11.8%、「ときどきする」52.9%
- ・わからないことをわかるまで確認は「いつもする」が 41.2%、「ときどきする」55.9%
- ・授業や講義の内容はを自分の言葉でまとめる、について「いつもする」が 35.3%、「ときどきする」44.1%

アンケート調査を周知しやすいように実習最終日（学内日）にアンケートを実施したが、回収率は 56%にとどまった。3 学年中、わからないことをわかるまで確認するという項目のなかで「いつもする」と解答する学生の割合が最も高い（41.2%）が半数以下となっている。

<アンケート調査・分析内容を踏まえた教育活動の見直しにかかる観点等>

- ・1, 2 年生で 1 日の学修時間が 2 時間未満と回答する学生が増加している。
- ・アルバイトの時間やボランティアの参加、サークル活動の参加はすべての学年で学修時間との関連性を見出せない。余暇時間の量に関わらず 1 日の学修時間が減っていると言える。
- ・2 年生では学習の方法として教科書・参考書の使用、Web 検索が主な方法となっているが、3 年生では各項目の回答数が多く、いろいろな学習ツールを使用している。
- ・全学年で「わからないことはわかるまで確認する」について全くしないと回答する学生はいない。学生が理解していると思っていることと、教員が理解したと判断する状況に乖離があると考えられる。

【見直し案】

- ・1, 2 年生で課題を増やす。

2025 年 学修時間・学修行動の集計結果

幼児教育学科

<集計結果>

学 年	回答率
1 年生	1 0 0 %
学 年	回答率
2 年生	1 0 0 %

<結果集計および分析>

【今年度調査（1、2 年生対象）の分析】

- ・授業外学修時間は、1 年生は「1～2 時間未満」が最多（35.7%）であり、「ほとんどない」が 14.2%存在する。2 年生は「1 時間未満」が 38.7%と、短時間層の割合が高い。一方、「ほとんどない」は 6.5%と 1 年生の割合と比べると低い。
- ・学習方法については、1 年生では「教科書・参考書を用いた予習（80%）」「動画コンテンツの視聴（53.3%）」「Web 検索（46.3%）」の順に多く、2 年生では「Web 検索（58.1.3%）」「動画コンテンツの視聴（51.6%）」「友人や先輩との相談・ディスカッション（41.9%）」の順であった。「AI ツールの活用」は、1 年生 20%、2 年生 38.7%であり、2 年生の方が定着していることがわかる。
- ・学習計画は「いつもする/ときどきする」が 1 年生 73.3%、2 年生 38.7%。計画の実施の評価は「いつもする/ときどきする」が 1 年生 46.7%、2 年生 16.1%と、2 年生の計画・評価の弱さが伺える。
- ・サークル活動は、1、2 年生ともに「ほとんどない」が大多数であり全体的に低水準である。
- ・ボランティア活動は、2 年生では少数が「1～5 回未満」参加しているものの、1、2 年ともに「ほとんどない」が大多数であり、地域活動への参加の機会不足が顕著である。・アルバイト時間は、1、2 年生ともに「7 時間以上」が 6 割以上を占めており、学修と生活（アルバイト）との両立が課題である。「ほとんどない」も 1 年生 13.3%、2 年生 22.6%と一定割合存在している。

【昨年度調査（1 年生対象）と今年度調査（2 年生対象）との比較・分析】

- ・授業外学修時間について、「1 時間未満」が 1 年次 32.1%→2 年次 38.7%と、学修時間が短い学生がどちらも 3～4 割程度いることがわかる。2 時間以上学修する学生は、1 割強（1 年次 10.7%→2 年次 13%）見られるものの、その内容や取り組み姿勢が不明であり、現アンケートから得られる情報だけでは「学修時間が長い＝良い」との判断はできない。今後、学修の内容について把握するための項目の設定を検討する必要がある。
- ・学修計画は、「まったくしない／あまりしない」が 1 年次 35.7%→2 年次 61.3%、計画の実施の評価は「まったくしない／あまりしない」が 1 年次 60%→2 年次 83.9%と、進級後に改善はみられず、むしろ弱まっている。
- ・1 年次時点で 9 割以上の学生に、わからないことをわかるまで確認しようとする姿勢が見られ、進級してもその割合が維持されている。また、授業の内容を自分の言葉でまとめようとする姿勢が見られる学生は、1 年次 71.4%→2 年次 80.6%と増加している。
- ・サークル活動は、進級後に大きな変化はなく参加率は依然として低調（「ほとんどない」が 1 年次 78.6%→2 年次 87.1%）である。
- ・ボランティア活動は、「ほとんどない」が 1 年次 50%→2 年次 74.2%へと大幅に増加。進級に伴い、地域活動やボランティアへの参加が大きく減少したことが明らかとなった。・アルバイトは、「ほとんどない」が（1 年次 28.6%→2 年次 22.6%）いる一方で、「7 時間以上」の学生が 1 年次 46.4%→2 年次 64.5%へと大幅に増加。アルバイトに費やす時間の増加による学修時間や課外活動への影響が懸念される。

<アンケート調査・分析内容を踏まえた教育活動の見直しにかかる観点等>

【見直し案】

- ・2年間の学びの中で継続して学習の計画と振り返りを行い、定着を図るような取り組みを検討する必要がある。（例：ワークシートを用いた計画・振り返りなど）
- ・2年生ではAIツールの学習利用が1年生より多いものの、利用者は4割未満にとどまっている。このため、各科目において有効な活用の仕方を実際に体験できる場を整え、学生のスキル向上につなげていきたい。
- ・サークル活動やボランティア活動はいずれも「ほとんどない」が大多数であることから、活動の機会を制度的に組み込み、体験や学びを得られる環境を保障することが求められる。（地域連携プロジェクトや学科での活動、授業など）
- ・アルバイトに費やす時間の増加により学修時間が減少することを防ぐため、学生が学びと生活（収入確保）を両立しながら、保育の実践力向上を目指せる環境づくりを行うことが効果的であるとする。（保育現場でのアルバイトや有償ボランティアの機会を短大として整備するなど）